

知事と県民の意見交換会（秋田地域振興局）議事要旨

- テーマ：女性が活躍できる建設業界を目指すためには
- 日時：令和4年7月19日（火）13:00～15:00
- 場所：秋田県議会棟 特別会議室

- 参加者：A氏（秋田瀝青建設株式会社）
B氏（株式会社清水組）
C氏（中央土建株式会社）
D氏（秋田舗道株式会社）
E氏（加藤建設株式会社）
F氏（藤田建設株式会社）
G氏（伊藤工業株式会社）

佐 竹 敬 久（秋田県知事）
伊 藤 淳 一（秋田地域振興局長）

現状報告及び事例発表

- 秋田地域振興局 近藤建設部長 「県内建設業の状況について」
A氏 「秋田中央建設業協会女性部会の活動報告について」
G氏 「現在従事工事の概要及び当該工事での役割について」

知事挨拶

毎年いろいろな分野の長と意見交換を行っているが、どうしても大きな話題になってしまい、中身の濃い話はできない。

建設業はインフラ整備やメンテナンス、災害対応、除排雪など、県民の安全・安心の確保に欠かすことのできない業種である。

私も県職員になる前、コマツに数年間いた。以前は3Kのイメージが強かったものの、近年は建機もスマート化してきている。

人材の確保は大変だが、女性の進出が重要であり、今日出された意見で共通する内容については、県でも今後に活かしていきたい。

意見交換

（局長）

先ほどの現状報告にもあったが、県内の建設業における女性従業員の割合は約11%と、他の産業に比べて低い状況にある。

こうした中、出席者の皆様が「建設業を目指したきっかけ」と、また「実際に働いてみてのやりがいや楽しさ」についてお話を伺いたい。

（A氏）

中学生のときに家を新築し、そのときCADで書かれた図面を見てとても感動し、土木

・建築などを勉強できる高校へ進みたいと思い、金足農業高校へ進学した。

また、祖父が建設会社を営んでいたこともあり、建設業はすごく身近な存在であったこと、母が秋田工業高校土木科卒であったことが大きな要因だった。

高校時代に資格を取得することができたこともあって、卒業後そのまま業界へ進んだ。

自分の携わった工事が形となって残り、地図に刻まれるのがやりがいである。

建設業の仕事は一人でできるものでなく、いろいろな人との出会いがあり、人と人とのつながりがとても重要だし宝物であると感じている。

(B氏)

きっかけは、高校進学に当たり、新聞の折込広告に入ってくる一般住宅の図面を見るのが好きで、私もこんな図面を描いてみたいと何気なく思ったことから建築科へ進んだ。

卒業後、住宅メーカーで見習いをやっていたが、不景気で続けることができなかった。

現在は、昔に思い描いていた方向へは進むことはできていないが、学生時代に学んだことを生かせる職業として建設業を選んだ。今は事務職であるが、少しは技術の経験もあるため、日々学びながらもやりがいを持っている。

(C氏)

高校を卒業してすぐに手に職を付けたかった。自分の父親も秋田工業高校卒業でものごとく高校時代が楽しい話をしていたので秋田工高校業建築科の道考えた。叔父も大工だったので、建設業への就職に抵抗がなかった。

働いてみて初めの3年間はとても辛かったけど、その時代を乗り越えたからこそ、今仕事をしていてとても楽しいしやりがいを感じている。辛いときは必ずと言っていいほど誰かが手を差し伸べて助けてくれてたような気がする。

子と一緒にドライブしていて、「これは母さんが携わった建物だよ」と誇れることが嬉しい。

(D氏)

私の実家は兼業農家で、父親が建設会社でオペレーターもしていた。そのため、建設業に親しみもあり、入社した。入社してみると、事務職なので現場には行く機会が少ないが、事務所で頼まれた仕事などの手伝いをしたりしている。

子供達に「ここはお母さんの会社で作った道路だよ」など、私も誇らしげに話をすると、「お母さんすごいね～」と興味を持って聞いている。

男性が多い職場の中、和気あいあいと楽しく仕事ができている。

(E氏)

父が大工で建設業は身近だったが、初めは考えていなかった。

他に就職して4年後に事務職から今の職場に転職し、1日中現場にいるということが最初は慣れず戸惑うこともあったが、今は現場にいることに慣れ、土木工事の現場は自然を身近に感じるができるので、外で働くことが気持ちが良い。

住民の方々が暮らしやすい環境になってくれればと思い、仕事を進めている。声をかけてくれる方もおり、そうしたことに温かみを感じている。地域に貢献できるのがやりがいだと感じている。

(F 氏)

男鹿工業高校電気科卒で、事務職を希望し、特段建設業にこだわらずに就職活動をしてきた。父親が建設業で働いていたので、当時の建設業の3Kを意識せず、むしろ現場で働く人のすごさを目の当たりにし、サポートすることにやりがいを感じている。

結婚、出産を経験している中、今後も仕事を続けてみたらと会社から声をかけられ、サポートしてもらったことで今がある。

船越陸橋手前のなまはげの像を当社が手がけており、子どもに自慢している。子どもも「僕も藤田建設に入りたい」と言ってくれる。

(G 氏)

きっかけは、実家を建て直す機会があり、建物が建つ過程で建築への興味と完成したときの両親の嬉しい表情を見て、自分も人を喜ばせたいと思ったことと、工業系の高校に進学したいと話したとき、両親も送り出してくれたことである。

やりがい、楽しみは、自分が関わった物件が実際に使用され、喜ばれている姿を見たときである。

(局長)

皆さんの話を聞くと、身近なところに建設業の方がいる、もともとなじみのあるものであったという方が多い。また、「形ができる」という仕事が、皆さんの誇り、やりがいになっていると感じた。また、人とのつながりというか、コミュニケーションの中に仕事のやりがいを感じているというのが印象的であった。

それでは次に、実際に建設業に従事されている皆様から「建設業における女性の就労環境の現状や課題」について、順にお話しいただきたい。

(G 氏)

職業を聞かれる際、「建設業」と応えると事務職と思われがち。現場監督だと説明すると「体力的にきつそう、男社会の中で働くのが大変そう」と、面白さよりもマイナスイメージが先行してしまう。

(F 氏)

社内でみると女性社員5名中4名が中途採用で、お子さんが小学校や中学校に入学するタイミングなどで、建設業に就職又は復帰している。学校行事、部活動、子の病気など、母親が休みを取るケースが多く、現場代理人は更に重責を負うことになってしまう。工事内容、天候によっては休日出勤もある。そのときの家庭と仕事とのバランスや、心のバランスの取り方の難しさを感じる。

(E 氏)

県内でも建設業協会の女性部会が各地で設立されたり、現場でも女性用トイレや大きい現場では更衣室等が整備されるようになっていたり、かなり働きやすくなってきていると思う。

(D 氏)

私が入社した当初、事務所のトイレは男女共同だった。今現場の仮設トイレは更衣室付きや、目隠しなど様々な工夫がされている。

私は出産・育児のとき、同じ事務の方から協力してもらい、子育てができたと思っている。急に保育園から呼ばれ、帰らなければいけなくなったことが何度もあった。当時本荘から秋田へ通勤していた頃、会社まであと5分というところで保育園から電話が入り、Uターンしたことも何度かあった。職場の方へ申し訳ない気持ちでいっぱいだった。

今思い出しても、当時のことについては大変感謝している。私は事務職なのでできるが、現場監督の方はそのような場合大丈夫なのかと心配もしている。周りの方々に理解してもらえないと、「迷惑を掛けたくない＝離職」となってしまうかと思う。

育児・介護・自身の体調不良・様々な面で困ることはあると思うので、お互い様という気持ちを持ち、平等に考えられたらと思う。

(C氏)

30年前は女性が現場におらず、変な目で見られていた。今は大分変わってきているが。

ある程度、会社に同姓がいた方が心強いような気がする。自分は同じ年の事務員がいて話しやすく、昔はよく飲みに行き、悩みを言い合いストレスを発散していた。

会社の環境、体制が一番重要で、私の場合、会社が快くフォローしてくれている。この会社に感謝しているので、これからも頑張っていこうと思っている。

(A氏)

入社して26年が経った。入社時に結婚しても辞めなくていいからな、と当時の社長に言われた。今思えば、その言葉があったからやってこれたと感じている。

快適トイレや女性専用更衣室（休憩所）の設置はとてもありがたく思っている。

職場において女性職員の雇用に対する理解、配慮がないと長く勤められない。家事・育児など女性の負担が大きいため、出勤時間を1時間遅くしてもらったり、子供の体調不良による急な呼び出しによる早退や休暇を認めてくれたりなど、会社で面倒を見てくれた。

また、家族のサポートも大切である。完成検査の日に子が水ぼうそうになり、どうしても休めずに夫に休んでもらったことがある。

一方で、女性活躍を推進するあまり、女性をひいきしているようにも思える。建設業界は女性だけでは成り立たないので、男女共学の学校のように、男性と女性がいるのが当たり前になってほしい。

また、総合評価で女性技術者活躍モデル工事の実績があれば加点される。モデル工事に関係なく、現場に従事した実績は登録されているのに、モデル工事か否かで差をつけられるのはおかしい。他の女性部会でも同じような意見を言う人がいた。モデル工事では資格のない事務員でも対象にすることができた。制度がとても緩い気がする。当社では昨年、モデル工事の実績を確保することができた。業界全体を盛り上げていく意味では、不公平感があると思う。

(局長)

最後の御指摘の件は改善できるところは改善できるようにしていきたい。

特に印象的だったのは、出産、子育てに関し、周りの同僚など会社からのサポートや理解を得られているのだなということが一番である。また、完成検査時に旦那さんに休んでもらったというお話もあったが、私も子どもが小さいとき、保育園で熱を上げて、私と妻とで明日、明後日はどちらが休むかについて、かなり激しい意見交換をした記憶がある。

出産、子育てに関して、会社のサポートもそうだが、旦那さんの仕事との関係とか、実家のサポートが得られたような感じがする。こうした点について、もう少し詳しくお話し

いただきたい。

(A氏)

夫の両親と下浜で同居している。保育園は祖父が送迎、飯も祖父母が作ってくれている。昔は子どもと一緒に暮らせる時間が少なすぎた気もしていたが、我慢して仕事を続けてきてよかったと感じている。

(B氏)

結婚や出産など様々なことを経験してきた。こうした状況を今の社長が受け入れてくれたし、両親の協力もあってこれまで何とかやってこれている。

(C氏)

実家がすぐそばにあり、普段はそうでもないが、子どもがインフルエンザや水ぼうそうのときなどは手伝ってもらった。

(D氏)

実家が遠いということもあるが、極力自分で家庭のことはやっていたし、なるべく自分でやりたいと考えていた。

(E氏)

他の女性同僚は、30分の遅出出勤と早帰りをしており、会社で支え合いながらやっている。

(F氏)

出産後、3～4か月後で仕事に復帰し、子どもが3歳までは1時間の遅出出勤で、15時退社としてくれていた。実家も近く、周りによくサポートしてもらっていた。

(G氏)

結婚や出産はまだだが、実際そういう場面に直面した際、会社がどういう体制をとってくれるか会社でまだモデルケースがないので不安はある。

また、現場従事している場合は、引継ぎをどうしたらよいのかなども不安である。

(局長)

次に、「女性の視点からより魅力ある建設業にするためには」について、行政への要望も含めて順に皆様のお考えをお話しいただきたい。

(A氏)

建設産業の仕事本来の魅力をもっと発信するべきだと思う。仕事自体を知らない人が多い。例えば、プロジェクトXみたいな番組も私は面白いと思うし、施工の過程なども含めて、どんな仕事をしているのかをちゃんと知ってもらえれば、やってみたいと思う人がもっと増えるのではと思う。

3Kの場合もあるが、それでもやりたいと思ってもらえるよう魅力を発信していくべき。

(B氏)

魅力は人それぞれ捉え方が違うと思うが、職場実習や体験が一番良いのでは。

(C氏)

今も出前講座で高校に行くことが多い。それはそれで重要なことであるが、小中学生はこれからで、いろいろな夢を持っているので、建設業の魅力をPRすべきと考える。小中学生が将来像を描く手助けになれると思うし、その中で建設業について感じることもあるのでは。

私は常に後輩女子に自分の体験談を話し、勇気づけたり励ましたりすることを心がけている。現場の区切りなどには、一緒にご飯を食べに行き意見交換の場を設けている。

(D氏)

3Kと言われているが、良い方向に変わってきていると思う。

女性が少しずつ、建設業界に携わるようになり、砕けた柔らかいイメージになってきているのではないかと思う。いざ形になった物が出来上がり、感動・達成感を感じたとき、この仕事をして良かったと思えるのではないかと思う。

力仕事では男性にかなわないので、そこは力のある方をお願いし、自分ができることを最大限に出せるよう、努力していけたらと思う。

(E氏)

男性が多いというイメージがあり、女性も増えているということをもっとPRすべきである。女性にとって、悩みなどを共有できる人が建設業には少ないという不安があるのでは。

県内の公共工事では第二、第四土曜日がお休みになっているが、毎週休みでも良いと思う。女性技術者が現場監督を行う場合、もっと余裕をもった工期にしてもらえるとありがたい。また、女性部会としての活動も継続していく必要がある。

(F氏)

職場見学の拡大だと思う。発注者の理解を得ながら、小中学生に塗装工事の一部を体験してもらったり、現場に手形を残させたり、こうした体験が心に残るのでは。

また、私は事務職だが、技術の女性同僚からは、ゆとりある工期での発注に考慮してもらいたいとの声を聞いている。突貫工事だと残業・休日出勤が多くなるためである。

(G氏)

女性がどうこうというよりも、建設業のイメージが漠然としていると感じる。現場で新規入場者教育を行っているが、新規入場者のこれまでの経歴を見てみると、経験が長い人が圧倒的に多く、逆に若手が少ないということである。

最近のニプロのCMのように、建設業も盛り上げていってもらいたい。

(局長)

地域振興局でも中学生向けにいろいろな職種を紹介する出前講座を行っている。その中に建設業の方にも来てもらって、実際にどういう仕事をしているか、説明してもらっている。実際に行ってみて私も思うのが、今の子ども達は昔に比べて社会的な経験が少ない、社会でこんな仕事があるんだよということ、例えば建設途中の橋台などを見せてあげる

とか、小中学生のときに実際に現場を見てもらうことで、自分のいろいろな将来の可能性を理解できるようになってくるだろうし、重要なことだと感じた。

最後に、県では今年度から4年間の県政運営指針となる「新秋田元気創造プラン」において、あらゆる分野における女性の活躍の推進に取り組んでいくこととしている。

「女性が社会で今より活躍していくためには」について、建設業に限らなくてもよいので、行政への要望も含めて順に皆様のお考えをお話しいただきたい。

(G氏)

同性、同年代の同僚がいれば仕事の相談がしやすいし、それで救われたことがある。

私の場合は母親に相談したが、個人の苦労や悩みを話し分かち合うことで、体だけでなく気持ちの面で負担が軽減できる。

(F氏)

県も賛同表明している「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」も含め、女性活躍推進が進行していると思う。私も一人でも多くの女性が社会で活躍していくためには、企業の男性リーダーの協力・行動力が重要だと考える。

(E氏)

女性の管理職をもっと増やせたらいいなと思う。いろいろな意見を聞いてくれるのではと感じている。

(D氏)

男女比率では女性が多い世の中、なかなか女性が社会進出できないのは、ロールモデルがまだまだ少ないからだと思う。

育児と仕事を両立させようとしても、女性の家庭での負担が大きいため、休みにくい・早退しにくいと思うような環境だと、女性が社会で活躍できないのではないかと。段々変わってきていると感じているが、更なる男性の家庭参画が今後の女性活躍にかかわっていくと思う。

(C氏)

女性びいきではないが、女性技術者が担う工事は工期を長く設定してもらいたい。モデル工事であればなおさらである。母さんは家でもやるのがたくさんあるためである。

女性が担う工事はポイントを付与するとかしてもらえれば、会社にとっても女性を雇うメリットがでてくる。

(B氏)

女性に限らず、家庭環境や社会情勢によりスタートラインが皆同じではない。いろんな境遇を抱えている方もいることを社会全体に理解してほしい。すべてがパーフェクトにできる方もいると思うが、皆誰でも得意不得意を持っている。自分の得意分野を見だし能力を育むことのできる環境が必要と思う。

女性目線で気が付いたことをどんどん提案できる環境、受け止めてくれる場所が必要と思う。

この前、普通科の高校を卒業した女性が入職してくれたが、女性部会の活動の成果を受け止めている。女性部会の活動は他の女性の方々と話せるいい機会でもあり、継続してい

きたい。

(A氏)

家庭環境と職場によると思う。私の場合、共働きであり夫の両親と同居している。そのおかげで、保育所や学校への子供の送迎、夕飯の支度、私たちが帰宅するまでの間も子供の面倒を見てくれたりと、家族の協力がなければ通勤時間が50分から1時間かかる現在の職場においてフルタイムで勤務することはできなかったと思う。

そんな時期を経て、現在下の息子は高校3年生。今まで長く勤められてこられたのは、支えてくれたたくさんの方々のおかげである。

特に若いときは「女なのに」という見下したイメージが多かった。今は昔より少なくなってきたが。男尊女卑の考え方をなくし、本当の意味での男女平等社会になってもらいたい。

また、男性リーダーの協力が重要であり、ストレスの吐け口にもなってもらいたい。

(局長)

会社のサポートが重要というお話が多くあったとともに、発注時の余裕をもった工期の確保という話もあった。県発注の工事では、今年度から、原則として週休二日制の工事を本格的に進めている。原則であってまだ完全ではないが、いずれ2年後には、建設業においても完全週休二日はやらなければいけないことになっているので、今後余裕は確保できていくのではないかと思う。

子育てに限らず、家庭生活と職業を両立させていくことができるよう、余裕をもった社会が必要と感じたところである。

知事総括

いろんな話を聞いて非常に面白かった。実態がわかり大変参考になった。

日本の歴史的な経緯もあって、女性の地位がまだ低い。少しずつよくなってきているが、まだまだである。

例えばパリでは「主夫」が公園で赤ちゃんを散歩させているのが当たり前の光景だが、日本ではなかなか見られない。

一般的には、家庭で女性が建設業に就くイメージがなかなかない。海上保安官は「海猿」、消防士は「出初め式」、警察官は「パトカー」、農家は「種苗交換会」などでイメージをもたれているが。

建設業についてはイメージアップが重要である。最新のICT建機を展示したフェアを開催し、その中で女性が建機を扱っている姿を見せるのも良いのではないか。

発注の制度は改善していくことが必要。

まだまだ課題があると思うが、皆さんには元気に建設業で頑張ってもらいたい。